

走行チェックシート

日付	2014年4月13日 (日)		時間	13:00 ~		イベント	2014MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦	
天気	晴れ		マシン	GSX-R1000 L4		ライダー	今野由寛 Yoshihiro Konno	
コース	名称	鈴鹿サーキット			気温	18 °C		
	コンディション	ドライ			気圧	1023 hpa		
	路面温度	26 °C	(計測時間 12:30)		湿度	30 %		
エンジン	スパークプラグ	NGK R0373A-10			エンジンOIL	シェルアドバンス ウルトラ10W-40		
	ファイナルレシオ	16 × 42 (2.625)			チェーンリンク数	RK520UWR 116 リンク		
トランスミッション	1st	B (35/16)	2.18		4th	B (31/21)	1.48	
	2nd	B (34/18)	1.89		5th	B (21/28)	1.33	
	3rd	B (36/22)	1.64		6th	B (26/21)	1.24	
フロント	パーツ名	OHLINS FGR200(750mm)			TEN	-12 段		
	スプリング	10.25 N/m			OIL	—		
	トップアウトスプリング	1	N/mm	135 mm	油面	250 mm		
	イニシャル	10 mm			残ストローク	— mm		
	COMP	-9 段			突き出し	STDトップブリッジで18mm突き出し mm		
リア	パーツ名	OHLINS TTX(370mm)			リンク	SPL		
	スプリング	110.0 N/m			リンクロッド	— mm		
	トップアウトスプリング	125	N/mm	8 mm	車高	STD+ 29 mm		
	イニシャル	11 mm			ピボット位置	-4 mm		
	COMP(LO)	-10 段			スイング長	599 mm		
	TEN	-15 段			残ストローク	— mm		
タイヤ	フロント				リア			
	銘柄	ダンロップ KR106			銘柄	ダンロップ KR108		
	サイズ	125/80/R420			サイズ	210/60R420		
	エア圧	2.1			エア圧	1.5		
チェック	順位	11 位		ベストラップ	2' 09.770(決勝中) 2' 09.943(予選)			
	水温	°C		油温	°C			
	ガソリン	IN	-	ℓ	走行距離	km		
		OUT	-	ℓ	燃費	km/ℓ		

<コメント>

皆様お久しぶりです。

今年はレース活動を行うにあたり、多くの方のご協力があってスタートラインに立つことが出来ました。

ありがとうございました。全力を尽くします。

今年は昨年よりも少し遅い開幕となりました。桜の花が舞う鈴鹿サーキットでJSBクラスのみで開催です。

今回は2&4ということでスーパーフォーミュラとの同時開催でした。

毎年フォーミュラと走行するとタイヤのゴムの特性の違いから、路面のグリップが悪くなる方向です。

そこを見極めながらのセットアップをしていきます。

今年の車体の大きな変更点は、サスペンションです。ショーワからオーリンズに変更しました。

幸い事前テストに参加できたので、そこでフィーリングの確認と仕様の方向性を探ります。

フロントフォークはストローク奥での動きを出したいので油面を大きく下げました。180mm→250mm

さらにフロントのトップアウトスプリングのレートと長さを変更。レートを弱くして長さを長くしました。

目的は80~90mmくらいのストローク位置でフロントの押し付け感を求めての事です。

ここはライダーの好みによるところが大きいと思います。トップアウトスプリングを変更したことによってフロントにかかる荷重が変化したためバネレートとイニシャルを高く変更しました。バネレート10.0→10.25N/mm、イニシャル7→10mm/ℓ

やも特性を見ながらバネレートを上下に振っていきましたが110N/mくらいで落ち着きました。

サスペンションもメーカーによって減衰の出し方が違うように感じました。

同じ車両で比較できたのでデータとして今後役に立ちます。

レースの方ですが、走行時間も短く台数も多いため、タイムは出せるときに出しておかなければなりません。

タイヤも選択も路面温度によって選定しなくてはなりません。予選までは路面温度も上がり30°Cを超えたため硬めのコンパウンドが使えるので、予選では2' 09" 943を出して9番手グリッドを獲得。

しかし決勝日は残念ながら曇ってしまい柔らかめのコンパウンドで朝フリーを確認。

決勝も路面温度が上がらず朝フリーと同じタイヤを履こうとしましたがトラブルがあり、今まで履いたことのないタイヤで

決勝を走ることになりました。

スタートしてタイヤの感触を探りながらだったためオープニングラップは12位で通過。

徐々にペースを上げて10位までポジションアップしました。しかし10周を過ぎたあたりでタイヤが終わってしまい、

残り周回数を転倒しないように走りきるのが精一杯だったようです。結果は11位でチェッカー。

開幕戦からスタートダッシュを決めて・・・。とっていましたが残念です。

次戦オートポリスは仕切りなおして頑張ります！

今回も応援ありがとうございました。

(株)Sサプライ
畑中 健太郎